

未曾有の被害となった熊本豪雨災害

7月4日に発生した熊本豪雨災害は、人吉・球磨を中心に、八代・芦北・山鹿など、県下の広範な地域に甚大な被害をもたらしました。

1級河川・球磨川が氾濫し甚大な被害を受けた人吉市での復旧支援活動に、7月8～12日の間、党市議団として参加、被災状況の調査・聞き取り、泥だしボランティアなどで協力しました。

【被害の状況】

(7月12日現在)

<人的被害>

死者 19名

(県下で死者62人・心肺停止1人・行方不明6人)

<住家被害>

床上浸水 3,775棟 床下浸水 906棟

<避難状況> *7月11日現在

避難所数 10カ所 避難世帯数 160+不明 避難人数 1,206人

<交通> JR肥薩線(八代～吉松)、くま川鉄道全線が不通



津波のような濁流・浸水被害に襲われた住家や田畑

人口約32,000人・約15,000世帯の人吉市、3分の1の世帯が被害を受けたことになります。

球磨川が決壊した部分の近隣住宅は、天井まで泥水に浸かり、家の中は洗濯機を回したように目を覆うばかりの状況でした。

田畑も泥に埋まり、他所から流れてきた倉庫・家の一部分・車などがいたるところに散乱。



日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか

NO. 1195

2020年7月19日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団



検索



被災地「人吉市」への支援活動に参加

ボランティアの確保と、受け入れ態勢拡充が必要

日本共産党は、いち早く現地に災害支援センターを立ち上げ、被害状況の調査・避難所の状況把握・泥だしや片付けなどの復旧ボランティア派遣・被災者の聞き取りなど行っています。

7月10日には人吉市社会福祉協議会が運営する『人吉市災害ボランティアセンター』も開設されました。しかし、新型コ

ロナの感染防止で、応募が県内在住者に限られているために、状況に見合ったボランティアの確保となっていません。1日も早い復旧のため、受け入れ態勢整備とともに、ボランティア確保の取り組みが求められます。



【控え室から】 問われる国の治水行政

上野 みえこ



この度、熊本県南部を中心に甚大な被害をもたらした豪雨災害。その後も降り続いた雨で、日本列島のさまざまな地域で、河川の氾濫・浸水被害が発生しました。わずかな数分で、みるみる水位が上昇し、押し寄せた激流の恐怖。浸水した地域での聞き取り調査をしましたが、被災者からは「もともと浸水地区だったので、住宅もかさ上げしていた。それなのに、・・・」「何十年も生きてきて、こんなのは初めて」と、想像を絶する被害について語られました。

最近、例年のように発生している日本各地での豪雨災害に対し、気象の専門家は、温暖化の進行による気象環境の変化で、これまでの「大丈夫」という判断が通用しなくなっていることを指摘されています。今後、どこでも起こりうる豪雨災害への備えが必要です。

今回の球磨川氾濫、赤旗紙上では、元建設省の河川局災害局長の方が、国がダム推進のもとで、強固な堤防の整備や河床掘削を怠ってきた点を指摘されています。改めて国のすすめる治水行政が問われていると思います。もし、市房ダムが緊急放流していれば今以上の被害であったと思われるのでは、白川上流の立野ダムにも当てはまるのではないのでしょうか。

そのことも含め、私たちは、国の治水行政についてしっかりと考えなければならぬと思います。



2019年度の政務活動費収支報告

日本共産党市議会だより 2020年7月19日号 (No.1195)

熊本市議会では、議員一人あたり年間240万円(月20万円)の政務活動費が支給されています。他都市・専門分野の事例調査、市議会だよりの発行、議員研修、政府への要望などを行い、議会活動に生かすとともに、市政の内容を市民に広報していくなど、住民に寄り添った、開かれた議会活動に取り組んできました。

2019年度は2人の議員団で、年間440万円(市議選が4月実施で11か月予算)の政務調査費を使い、右記の収支報告のとおり活動してきました。その内容・収支について報告します。(主なものを下記に紹介します)

なお、収支報告書および領収書・添付書類は、共産党市議団控室や議会図書館で閲覧することができます。

上野みえこ なすまどか

<調査研究費>

- (1) 9月17日「大規模災害時の自治体の役割」について聞き取り
兵庫県立大学大学院・室崎益輝教授(防災・減災と庁舎機能ほか)
- (2) 11月12日千葉市における大型台風・短時間集中豪雨の被災状況とその対応(党千葉市議団からの聞き取りと資料収集)

<研修費>

- (1) 8月8日保育研究所主催「地方議員セミナー」参加
(子ども・子育て新制度、保育無償化問題、学童保育問題)
- (2) 11月12日・政府要請行動(熊本地震復旧、教育、健康・福祉他)
- (3) 2020年2月5~6日自治体研究社主催「防災問題議員研修会」参加

<広聴費>

- ・9月議会報告会(10月16日・熊本市中央公民館)

<広報費>

- 市議会だより発行(手刷り版・年間46回、カラー版号外・年2回)

2019年度 政務活動費収支報告書

会派名 日本共産党熊本市議団

1 収入

政務活動費 4,400,000 円

2 支出

(単位:円)

科目	金額	備考
調査研究費	77,152	防災問題調査 台風災害調査
研修費	148,290	議員研修会参加
資料作成費	0	
資料購入費	322,893	新聞・書籍購入他
広報費	2,185,399	市議会だより印刷経費・ホームページ及びサーバー保守管理
広聴費	19,645	市政懇談会・議会報告会
会議費	0	
人件費	1,136,900	事務アルバイト代・交通費
事務所費	313,496	カラー複合機リース料 文房具代
事務通信費	65,236	FAX・インターネット 回線利用料
要請・陳情活動費	133,680	政府要請行動
合計	4,402,691	

3 残額

-2,691 円